



子どもの森づくり通信

(発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク)

JP子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2017年8月号)

〒146-0082 東京都大田区池上1-3-4 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
<http://www.kodomonono-mori.net> <mailto:info@kodomonono-mori.net>

「JP子どもの森づくり運動」とご縁をもちたい方々に、活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。



(写真：「東北復興グリーンウェイブ」の苗木の写真(2016年生))

西日本の猛暑と東日本の冷夏、さらに全国的な豪雨と、今年も不順な天候の夏となりました。

そんな気候の中でも、“どんぐり”たち、そして子どもたちは確実に育ってくれています。

今月号では、木の成長と子どもの成長を確認する活動の提案です。

(目次)

1. JP子どもの森づくり運動10周年記念企画 第三弾「どんぐり同窓会」開催のご提案
2. 「東北復興グリーンウェイブ」東北の“どんぐり”の苗木を見送る活動レポート
3. 事務局からのお知らせ
 - 新・どんぐり博士の育苗講座(2017年8月号)

■「JP子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「JP子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク(「子森ネット」)が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の幼稚園・保育園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「JP子どもの森づくり運動」運営体制

- ・運営 : NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク(「子森ネット」)
- ・特別協賛 : 日本郵政グループ
- ・後援/協力

(公社) 全国私立保育園連盟	(公社) 大谷保育協会
(公社) 国土緑化推進機構	NPO法人C・C・C富良野自然塾
(一社) 日本森林インストラクター協会	NPO法人自然体験活動推進協議会
NPO法人MORIMORI ネットワーク	(一社) 日本オート・キャンプ協会
(株) 実業之日本社 月刊ガルヴィ編集部	保育環境研究所ギビングツリー



1. JP子どもの森づくり運動10周年記念企画 第三弾「どんぐり同窓会」開催のご提案

JP子どもの森づくり運動は2018年に活動10周年を迎えます。そこで、参加園の皆様と共にこれまでの活動を検証し、成果をとりまとめ、活動の次の展開につなげることを目的とする「JP子どもの森づくり運動10周年記念企画」（以下「10周年記念企画」）の三つ目の企画として、「どんぐり同窓会」の開催を提案させていただきます。**子どもたちと一緒に植えた“どんぐり”の苗木を見に行くことで、木の成長と共に子どもの成長を確認しようという活動です。**“樹を植えて、子どもの心を育む”ことをテーマとするJP子どもの森づくり運動の10周年記念にふさわしい活動と思われまます。多くの参加園において開催されることをおすすめします。

<開催概要>

- 1) 主催：各開催園
- 2) 共催：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク
- 3) 特別協賛：日本郵政グループ
- 4) 開催内容

卒園児と在園児と一緒に、これまでに植えた“どんぐり”の苗木を見に行き、木の成長を確認します。終了後園に戻り、例えば給食を食べながら、卒園児と在園児の異年令交流や卒園児の近況報告会等を開催します。



「三和新琴似保育園」開催風景

*開催方法の詳細については、別紙チラシをご参照下さい。

- 5) 開催時期：卒園児参加の事情で、春休み、夏休み、冬休みのいずれかの時期
- 6) 開催趣旨・目的

“樹の成長は、子どもの成長”として、これまで取り組んできた運動の成果が確認できます。

卒園児と在園児が参加することで、異年令交流が行なわれ、運動のレガシーが引き継がれます。

保護者や地域の人たちに対して、運動を通じて培われた子どもたちの成長を分かりやすく発信します。

6) 開催レポート

開催後、事務局まで実施レポートをお送り下さい。お送りいただいたレポートは、JP子どもの森づくり運動の10年間の活動成果をとりまとめ、これからのより良き活動を提案することを目的に発行される「10周年記念冊子」（2018年度末に発行予定）に掲載させていただきます。



2. 「東北復興グリーンウェイブ」 東北の“どんぐり”の苗木を見送る活動レポート（詳細、ホームページご参照）

●東京都「新宿せいが子ども園」 東北復興グリーンウェイブ「苗木を見送る会」

・日時：2017年5月10日（水）・場所：自園 ・日本郵政グループ：落合郵便局 染谷局長

* どんぐりから苗木になるまでをパネルシアターで紹介。苗木が被災地でどのように役立つのかなどのお話をお聞きました。



●広島県「山本まごころ保育園」 東北復興グリーンウェイブ「苗木を見送る会」

・日時：2017年5月12日（金）・場所：自園 ・日本郵政グループ：山本郵便局 堀元局長

* 苗木6本、今回も山本郵便局局長さんに来てもらい、そら組（年長）・つき組（年中）が集まって「東北へどんぐりをおくる会」を行いました。オリジナルの人形劇「かしの木さん、クヌギさん」をしました。最後にどんぐりダンスをみんなで踊って終わりました。つき組は終わった後、昨年植えたどんぐりが大きくなっていることを確認していました。今年の秋には、全国大会で教わったどんぐりを食べる会をすることにしました。子どもたちも楽しみが増えました。今年こそは、夏場に苗木を枯らさないようにしようと思っています。



3. 事務局からのお知らせ

1) 「♪どんぐりえがお」ビデオダンスコンテスト2017 作品募集

「東北復興グリーンウェイブ」のキャンペーンソング「♪どんぐりえがお」のビデオ映像によるダンスコンテストを、昨年につづき今年も開催します。昨年は、全国から12作品の応募がありました。「♪どんぐりえがお」の歌は震災の大きな悲しみを乗り越えて、子どもたちに“どんぐり”と“えがお”の絆でつながり、共に生きていこうと呼びかけています。事務局では、今年も笑顔で楽しそうに「♪どんぐりえがお」をダンスする多くの園児に出会えることを楽しみにしています。多くのご応募お待ちしております。なお、昨年のコンテストの様子、及びコンテスト応募の詳細は、「子森チャンネル」で紹介しております。



2) 植えた苗木を見守る活動

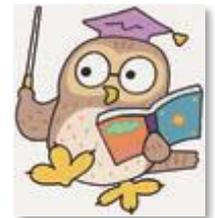
夏は、苗木たちも子どもたちと一緒に元気に育つ季節です。同時に、苗木が植えられたフィールドの夏草も大きく育ち、まだ若い苗木たちを覆い隠してしまいます。苗木を見守る活動として、有志を募り、夏草刈りを実施しましょう。その際、せっかく育った苗木と一緒に刈らないよう、事前に苗木にリボンなど印をつけるなどして十分に注意してお手入れしてください。



●新・どんぐり博士の育苗講座(2017年8月号) ～虫の被害は大丈夫ですか？～

今年の夏は、猛暑・ゲリラと広域での豪雨・日照不足と東日本以北での冷夏とあらゆる夏を体験してしまいました。7月下旬以降、全国に共通した傾向は、雨日数が増え、非常に湿度が高かったことです。苗への水やり不要の日が多かったと思います。

どんぐり博士：河内和男（子森ネット・森林インストラクター）



夏の多湿で植物管理上の心配は、先月触れた細菌性の病気と、虫の害です。代表は茎などから養分を吸い取って植物の元気をなくすアブラムシと、葉を食い荒らす、蛾や蝶の幼虫、毛虫です。育苗という観点ではアブラムシに触れるべきですが、今回は私が現在自宅の庭（福島県）で格闘している毛虫についてお話しします。園庭などの庭木の管理として読んでください。

どんぐりの木が毛虫の食害を受けることはまれです。しかし、外来種のアメリカシロヒトリの幼虫（毛虫）は、葉であれば何でも食べるので、被害が庭全体に広がってしまうと、どんぐりの苗木も被害を受けることとなります。アメリカシロヒトリは、日本の梅雨の気候が繁殖に大変適していたので、あっという間に広まりました。

具体的には、最低気温20℃以上で最高気温が25～30℃未満、湿度が高く日照時間が少ないことです。ただここ数年、天候の極端化（高温と日照り、乾燥など）で大発生が押さえられていた感がありました。しかし、ここ10日間ほどの天候が上記の条件に合致してしまい、久しぶりに格闘しております。アメリカシロヒトリが産卵しやすい木は、アメリカハナミズキ、サクラ、柿です。これらの木で葉が白く枯れている部分が広がったら、幼虫のいる目印です。その枝を切り落とし、踏み潰し焼却処分（丈夫な袋に入れて燃えるゴミとして処分）を繰り返すのが基本的駆除です。

我が家では建物そばのハナミズキは適切に対処しましたが、柿は悲惨な状況です。夏の太陽が数日照りつけてくれると、自然に退治できるのですが・・・。